

演奏会レポート

◆ 宇都宮シルバーアンサンブル＆コーラス花 創立15周年記念コンサート デューク・G・サウンド佐野敬次

私は個人的にはこの宇都宮シルバーアンサンブルが一番好きなチームです。特にハーモニーの良さ全体の音のバランスは他チームにないものです。誕生から15年目の宇都宮シルバーアンサンブルと「コーラス花」混声の歌声とのジョイントコンサートが聞けて幸せでした。



第1部では宇都宮シルバーアンサンブル鈴木先生の指揮する7曲はどれも高音と低音部とのバランスの良さを出し切り、素晴らしい演奏でした。特に「真珠採りのタンゴ」と「ラ・クンパルシータ」など歯切れの良さはすごいものでした。

第2部は「歌声広場」として会場のお客様と一体となって歌い、明るく楽しい曲を取り込んだ曲の中で「ふじの山」は文部省唱歌を戦前戦後と変化して行く歌詞の説明など先生の会話と初めて聞く内容がいっぱい出てきて有意義な時間でした。ナツメロと本県ゆかりの曲として「手のひらを太陽に」とか「忘れ名草をあなたに」など懐かしい思い出の曲でゆったりとした気持ちになり、中でも「野口雨情」の「七つの子」を今回の司会者のお孫さんが歌って下さってとても良かったです。鈴木先生の本年3月に80歳の傘寿を迎えられたお祝いを兼ねての記念コンサートに私の妻と一緒に楽しむ事が出来ました。本当にありがとうございました。

◆ 市川シニアアンサンブル 第2回定期演奏会

船橋シニア代表：高萩良郎

5月20日、市川シニアアンサンブル第2回定期演奏会が市川市文化会館小ホールで開催された。平日の開催にもかかわらず、動員観客数は320名に達し大盛況であった。

プログラムは2部構成で、第1部ではクラシック3曲が演奏された。その中でもヴィヴァルディ作曲、指導・



指揮者でもある笹森先生編曲の「四季」は、原曲が持つ特徴を活かしながら、いわゆる良いとこ取りの編曲で、

春夏秋冬それぞれ第1楽章の始まる前に司会が詩の朗読をするという演出もあり、観客を魅了するに充分であったと感じた。

休憩を挟んで第2部の開演の前に代表より挨拶とともに、不測の入院で出演断念を余儀なくされたコンサートマスター岡村氏からの篤いメッセージが読み上げられた。第2部では笹森先生編曲のタンゴ、映画音楽など11曲が演奏され、観客参加の歌える曲もあり、来場者は結構くつろぎ楽しんでいた様子でした。

◆ 「それいゆ」第3回定演の報告 全シ連・岡村斉能

千葉シニアアンサンブル「それいゆ」は去る6月30日、千葉駅前の京葉銀行文化プラザ音楽ホールで第3回の定演を催した。当団は平成20年6月に発足して翌月の7月に発足記念コンサートを敢行し、市民会館小ホールを超満員にして以来、過去2回の定演（収容700～1000人のホール）を満席にしてきたが、今回も満席（720名）だった。顧客管理が奏効しているのだろう。近隣の楽団から裏方手伝いや、見学者も多くて賑やか。ご同慶の至りである。熊谷市長は今回もご来臨下さり、シニアアンサンブルを讃えて下さった。正に勇気百倍である。



演奏内容は第1部のクラシックは団員も少し固かったが徐々にリラックスし、第3部の日本の歌、特に「恋の歌」シリーズでは会場も盛り上がり、フィナーレの全員合唱で最高潮となった。ただ残念だったのは、最後に、この団を創設し、6年間育成された山崎信子さんが健康の理由で引退されたことである。山崎さんの今後のご健康と「それいゆ」の益々のご隆栄を祈念します。

◆ 市原シニアアンサンブル「こすもす」 「夏の木かげコンサート」

全シ連・萩原充行

7月27日、市原市は34度を超える灼熱地獄…にも拘わらず会場の市民会館は詰めかけた聴衆で開演時間前から500席が殆ど埋まり、開演時には通路まで人が溢れる盛況となった。

ステージに団員23名が登場すると「おじいちゃ〜ん！」の声援に満場大爆笑。続く佐久間市長の飾らぬスピーチ。司会の稲葉由貴さんが巧みにムードを盛り上げ、満場の拍手の中をプログラムが進行。とくにパート毎に全員が立ちがって演奏した「コーヒールンバ」が圧巻だった。「こすもす」の創設から4年の月日がアツという間に過ぎたが、「みんなでやろう」という団員の息の合った組織とリーダーシップの見事さが優れた広報力（ホームページ・ブログ・メーリングリスト）と相俟って広く市民の支持を得ているのが誇らしく、嬉しい。

